

善降附シ、故封ヲ保ツ、豊臣氏、畠山氏ノ故地ヲ以テ、其弟秀長ニ加賜ス、其子秀俊卒シテ國除ス、和歌山ヲ桑山重晴ニ賜フ、關原役後、堀内氏善ノ封ヲ收メ、桑山氏ヲ大和ニ徙シ、淺野幸長ヲ全州ニ封ズ、元和五年、其弟長晟、安藝ニ徙リ、徳川頼宣代テ封ゼラレ、和歌山ニ治ス、安藤直次ニ田邊ヲ賜ヒ、水野重仲ヲ新宮ニ封ジ、以テ其相トナス、皆世襲ス、王政革新、田邊安藤直行水野新宮忠幹直ニ藩列ニ加ハル、既ニシテ皆改テ縣トナシ、又廢シテ和歌山一縣ニ併ス、

〔先代舊事本紀十〕紀伊國造

檀原朝武神 御世、神皇產靈命五世孫天道根命定賜國造、

熊野國造

志賀高穴穗朝成 御世、饒速日命五世孫大阿斗足尼定賜國造、

〔續日本紀十六〕天_聖平十七年九月戊午、外從五位下井上忌寸麻呂爲紀伊守、

〔紀伊續風土記提綱〕守護 佐原十郎左衛門尉義連

義連は三浦大介義明の三子にして、從五位下和泉守左衛門尉となる。○中略元暦元年攝州一、谷鵬越の先陣をなし、和泉紀伊兩國の守護となる。三浦家系圖

〔吾妻鏡十八〕建永二年○承元六月廿二日丙寅坊門亞相信清卿使者參著所被進仁和寺御室令旨

也、是紀伊國土民等、亂入高野山、企狩獵押妨寺領、和泉紀伊國守護代爲其張本、爲關東御沙汰可被止、狼藉之趣、有寺門愁訴之間、御室以件金剛峯寺所司等狀被仰、合坊門仍又被傳申其旨云云、廿四日丙戌就御室仰坊門亞相被執申高野山愁訴、紀伊國土民狼藉事、於御所有其沙汰、和泉紀伊兩國守護者佐原十郎左衛門尉義連職也、義連卒去之後、未被補其替、向後兩國爲院御熊野詣驛家雜事、自今以後無指事外、不可置守護人、就之諸事可爲仙洞御計之由被定之、仍義連代、早可召上之由、所被遣御書於掃部入道寂忍之許也、廣元朝臣奉行之、